

## 4 . 成果と指標

## (1) 成果と指標

施策の成果	ストラクチャー・プロセス指標	直近の実績	(目標) 2029年
脳卒中を発症する危険性が高い人が減少していること	特定健康診査受診率	48.8% (2021年)	70%以上
脳卒中を発症した患者が専門的な治療を受けられる医療機関へ速やかに搬送され、適切な治療が行われる体制が構築されていること	脳梗塞に対するt-PAによる血栓溶解療法の実施件数(SCR)	137.5 (2022年)	増加
安心して在宅で療養できる体制が構築されること	在宅等生活の場に復帰した患者の割合	53.1% (2022年)	56%
最終的な成果	アウトカム指標	直近の実績	(目標) 2029年
脳血管疾患で死亡する患者が減少すること	脳血管疾患の年齢調整死亡率(人口10万人あたり)	男性 85.4 女性 54.4 (2020年)	男性 81.1 女性 51.7

## (2) 指標の説明

指標	説明
特定健康診査受診率	内臓脂肪を減少させ生活習慣病を予防、改善することを目的として実施されており、脳卒中等の生活習慣病を発症する危険性が高い人を早期に発見し早期治療につなげます。 出典：特定健康診査・特定保健指導の実施状況(厚生労働省)
脳梗塞に対するt-PAによる血栓溶解療法の実施件数(SCR)	脳梗塞になった脳細胞が完全に死んでしまう前に血流を再開して少しでも脳細胞を救う治療法です。治療が適用されるか検査を行い、治療の適用患者には速やかに治療を実施する必要があります。 出典：内閣府「医療提供情報の地域差」(NDB-SCR)
在宅等生活の場に復帰した患者の割合	「生活の再建」により、地域社会に参加できるよう多職種による連携体制の構築及び支援を行います。 出典：NDB(患者調査から集計)
脳血管疾患の年齢調整死亡率(人口10万人あたり)	これまでの脳卒中对策に新たな施策を加え、より一層脳卒中对策を推進させ、脳卒中による死亡率を減少させます。 年齢構成に差があるため、地域間で死亡状況の比較ができる年齢構成死亡率で比較します。 出典：厚生労働省「人口動態統計」